

授業科目名	担当教員名	授業実施日	※
大きく変化する日本の金融	家木 俊彦	6月3日(火)	
学生番号	学部・学科	学年	氏名
01080042-5	文・人文	1年	香川 仁

大変わかりやすい講義であった。最初は友人関係など身近な例を用いた上で信用の有無について説明し、銀行預金における本質的な話へ迫っていく。一方で図や具体例を多用し、ストックオプションやM&Aなど一般庶民には実感がわかない項目についても理解しやすいように工夫が成されており、聞き手を意識した内容になっていた。金融は身近な存在でありながら、常に銀行に対して「借り手」となる個人にとってあまり良いイメージがない。しかし本来資金を融資してもらうということは、自分のアイデア実現のための援助をしてもらうことで成功すれば利子分も差ほどいても融資を受けながらそれ以上の利益を得ることからできるという、積極的側面も兼ね備えているのだと気付かされた。借り手も資金が増えるというのは一種のパラドクスであるが事実、これによる成功例も多数存在するのだ。金融のイメージも一新する講義となった。また、ストックオプション(経営者報酬を株価に連動させる制度)という新制度にも驚いた。良質な経営者の確保の為に経営者に権利行使価格で自社株を買い、権利を与えるというものだが、権利という位置付けこそ素晴らしい仕組みを生み出しているのだ。もし株価が上がれば経営者は市場価格より安価に株を買え、下落したら買わなければならない。つまり、義務ではないのリスクが無いのだ。だがこの制度にも欠陥があるのではないかと私は思う。経営者が買った株がそのおまへ第三者へ渡るとして、一種の賄賂として機能したり、あるいはインサイダー取引になったりしかねないからだ。健全な企業、しからみのない企業という観点からすると必ずしも良制度とは言えないストックオプションであるが、M&A機運が高まり、より強い経営者が何より必要とされる現在では、やはり重宝されることが多い制度である。